

# 長野県革新懇ニュース

2018年3月号  
発行日3月10日  
会費 2,000円  
購読料 3,000円(送料込)  
振替 0510-3-15971

226

発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会  
(長野県革新懇) 発行人：山口光昭 編集長：高村裕  
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内  
TEL：026-234-1231 FAX：026-234-2219 メール：mail@nagano-kakushinkon.com

====今号の主な記事====

- 1面 手塚孝典さんインタビュー
- 2面 1面続き、近現代信州の歴史回廊
- 3面 「2・4事件」85周年記念集会  
平昌オリンピックに思う 栗岩恵一さん
- 4面 「『きけ わだつみのこえ』上原良司のこと」堀井正子さん  
映画評論「DETROIT」  
読者のこえ・各地の動き、漢字パズル

長野県革新懇

検索



1965年松本市生まれ。同志社大学文学部卒。広告代理店勤務を経て1997年信越放送入社。制作部ディレクターとしてSBCスペシャルなどを担当。『刻印～不都合な史実を語り継ぐ～』で日本民間放送連盟賞最優秀賞、『残された刻～満州移民・最後の証言～』で地方の時代映像祭優秀賞、『遠太郎のひまわり～日中友好の明日へ～』でギャラクシー奨励賞など受賞。

## 満蒙開拓を振り返ることは

## 地元放送局の現代的責務

てづか たかのり さん

(信越放送ディレクター)

現代にもつながる  
満蒙開拓の歴史の教訓

Q 先頃放映された『決壊』(左  
囲み参照)を観ましたが、手  
塚さんが満蒙開拓問題に取り  
組まれてきた理由をお聞かせ  
下さい。

信越放送に勤め始めた30代  
の頃は中国残留孤児の問題が  
話題になっていて、最初に取  
材したのが中国残留孤児の子  
孫の皆さんでした。取材して  
いくと、中国では侵略者の子  
どもだと言われ、帰って来た  
ら中国人だと言われて蔑まされ、差別を受けてきたことを  
知り、戦争が僕らの身近な所  
でまだ生々しく残っている  
ことを感じました。それが  
2002年頃ですが、その取  
材を通して、何故、彼らのよ  
うな人たちが生まれたのかを

考えたいと思ひ、満蒙開拓に  
ついて調べるようになりまし  
た。飯田・下伊那で体験者の  
聞き取りや証言を記録してい  
る市民の方々がいたので、そ  
ういう皆さんを通じて体験者  
の語りを聞くようになりまし  
た。その時に、今回番組にし  
た(豊丘村)河野開拓団のこ  
とを聞き、本当にショックを  
受けました。開拓団の村人が  
集団自決して、送り出した村  
長も自死してしまつた。それ  
が戦後長い間全く語られてこ  
なかつたということで、根深  
いものがあるんだなと感じ、  
満蒙開拓の問題を取材するこ  
とは長野県の放送局の責任だ  
と思ひました。

もう一つの理由は、福島第  
一原発事故の被害者の方を取  
材したこと。その方は長  
野県出身で、満蒙開拓に行つ  
て戦後引揚げてきたのです  
が、土地も身よりもないう  
ことで、福島県の葛尾地区  
に再入植して酪農をやつてき  
ました。しかし、原発事故で  
避難生活を余儀なくされて、  
仮設住宅ですつと暮らしてい  
るんです。この取材で、東京  
電力の事業とはいえ、補助金  
交付とか優遇措置をして国の  
エネルギー政策をすすめてい  
く構図が満蒙開拓と似ている

### 自らの責任に真摯に 向き合った胡桃沢盛

Q 番組で焦点を当てている旧  
河野村の胡桃沢盛村長につい  
てはどのようにお感じですか。

日記を読むと、大正デモク  
ラシーの時代に青春を過ごし  
てはどのようにお感じですか。

### 民教協スぺシャル『決壊』祖父が見た満州の夢』

制作/信越放送、ナレーター  
/吉岡秀隆、ディレクター/  
手塚孝典、プロデューサー/  
池上英樹、雪竹弘一  
戦時中、長野県の河野村  
(現・豊岡村)で村長を務め  
た胡桃沢盛。国策で送り出し  
た満蒙開拓団の内73人が敗戦  
後の満州で集団自決し、後に  
自らも命を絶つた。孫の伸さ  
んは、祖父がどのように戦争

と感じました。結局犠牲にな  
るのはそこで暮らしてきた  
人々で、国民に犠牲を強いる  
国策とは何か、という疑問が  
沸いてきました。  
満蒙開拓で帰ってきた人た  
ちは、お前たちは好きで行つ  
たんだからと非難されたわけ  
ですが、原発の避難者も、原  
発誘致して良い暮らしをして  
きたらうと心無い言葉を投  
げつけられる、同じ事が現代  
でも繰り返されていることに  
愕然とします。結局、戦後の  
日本社会は戦争や国策の過ち  
の責任を問うてこなかつた、  
そのことに向き合つてこな  
かつたと思ひますね。その  
結果、再び棄民という結果を  
招いてしまつた。満蒙開拓と  
いう過去のテーマを扱ってい  
るけれども、それは今の国や  
社会のあり方を考えること  
でもあると思ひます。

Q 伸さんは、その経緯をどう  
感じられているのでしょうか。

伸さんは長らく集団自決や  
祖父の自死ということを知ら  
なかつたわけ。知つたのは  
おそらく30代だつたと思ひ  
ます。その時には事実を受け  
止めきれず、長い間、向き合  
えてこなかつたようです。そ  
れが、満蒙開拓平和記念館で  
自分の体験やお祖父さんに対  
する思いを初めて語つたこと  
をきっかけとして、お祖父さ  
んのことに向き合えるよう  
なつたと話されていりました。  
戦争体験者と同じように、伸  
さんも語るまでには長い時間  
が必要だつたと思ひます。語  
り始めたときに、それを真剣  
に受け止めてくれる人たちが  
いることを知り、少し前に進  
めたんじゃないでしょうか。

### 単純な正義や善意が 正しいとは限らない

Q 胡桃沢盛の生き方を通して  
触れていたただよふなことが  
ありますか。

「満蒙は日本の生命線」と  
いう考えは、明治以降の国づ  
くりと大きな関わりがあつ  
て、当時は一義的にはソ連に  
対する警戒感があつて出てき

### 身内だからこそ

### 祖父の過ちを直視

「満蒙は日本の生命線」と  
いう考えは、明治以降の国づ  
くりと大きな関わりがあつ  
て、当時は一義的にはソ連に  
対する警戒感があつて出てき

【2面に続く】